

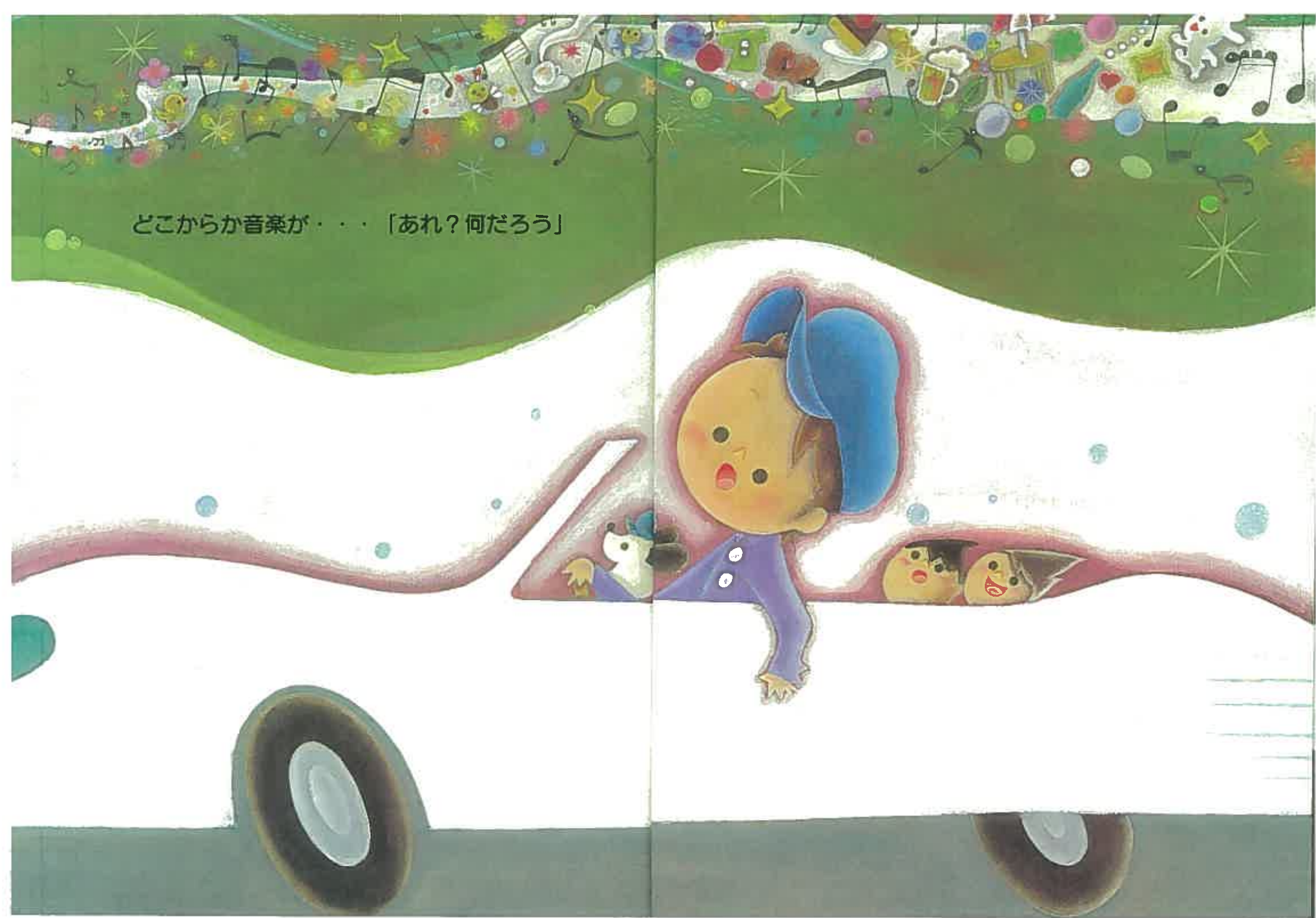
# クルマをあい まちもあるこう!



未来の車。排気ガスゼロ。騒音ゼロ。  
しかも、とても安全。



どこからか音楽が・・・「あれ？何だろう」



「何だか楽しそうな場所だな」  
「ちょっと寄ってみようか」



「いらっしゃいませ。  
どうぞ休んでいきませんか？」  
「うわー、いいな。  
・・・でも、今日は  
クルマできたから」





クルマをおいてまちへおでかけ  
「今日はクルマも僕もお休みにしよう」

# クルマを愛してまちもあるに♪を お手にとってくださり、ありがとうございます。

自動車は私たちの生活に多くの便利さをもたらし、なくてはならない生活の道具となりました。しかし、同時にクルマは私たちの生活にいくつかのマイナスの面があります。この冊子は、自動車を使うことによるプラスの面、マイナスの面を考えながら、賢い利用（ワイズユース）をオススメする冊子です。

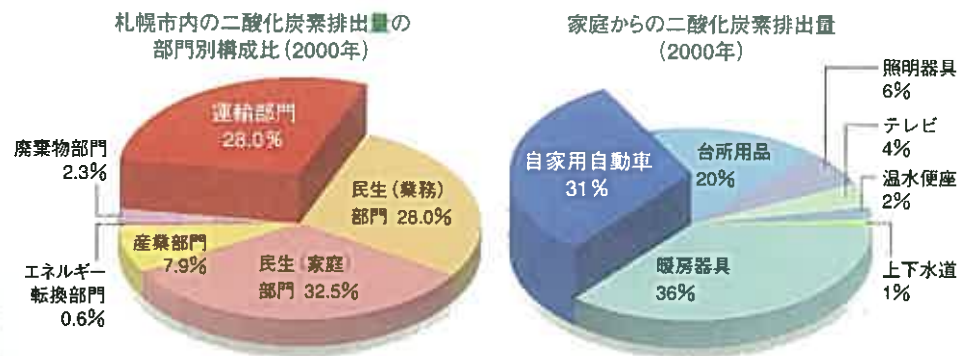
ここでは、自動車のワイズユースを進めるために、知っていただきたいことを5つ紹介いたします。

## 地球温暖化について

左下のグラフは、札幌市内の二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）排出量を部門別に表したものです。札幌市では運輸部門からの排出量が全体の約3割あり、そのほとんどが自動車によるものです。しかも、1990年比で22%増（2003年）と年々増え続けている状況です。京都議定書で日本の削減目標（6%）が決められているように札幌市でも一人当たりのCO<sub>2</sub>排出量を2017年までに1990年の水準よりも10%削減することとしています。運輸部門からの排出が全体の約3割を占めており、この対策を打たなければなりません。

また、右下のグラフにあるように一家庭におけるCO<sub>2</sub>排出量をみても自動車は3割を超えています。それぞれの家庭で自動車のワイズユースを考えればたくさんのCO<sub>2</sub>を減らすことにもつながります。

できるだけ、自動車の利用を控え「公共交通機関」を利用したり、「自転車」や「徒歩」など、環境にやさしいモビリティ（移動手段）を選択しましょう。



資料：札幌市

## 自 動車のリスクについて

自動車は、ドア to ドアで楽に目的地に着ける便利な乗り物ですが、交通事故のリスクも負うこととなります。近年、保険会社ではリスク細分型保険を採用し、運転歴・年間走行距離・安全装備などいくつかのリスク要因により、保険料に差をつけています。これは、年間走行距離が多い人や通勤などで毎日運転する人ほど、事故にあう確率が高いと判断して保険料を高くする仕組みです。

例えば北海道における事故データ（平成17年）から換算すると・・・

- 一生のうち55%のドライバーが事故を起こします。
- 一生のうち100人に一人のドライバーが死亡事故を起こします。
- さらに、300人に一人のドライバーが事故死します。
- そして、250人に一人のドライバーが歩行者を交通事故で死亡させます。

・・・という確率が出てきます。

誰しも事故にはあいたくないし、当然加害者にもなりたくありません。できるだけ自動車の移動を控え、事故のリスクを減らしましょう。

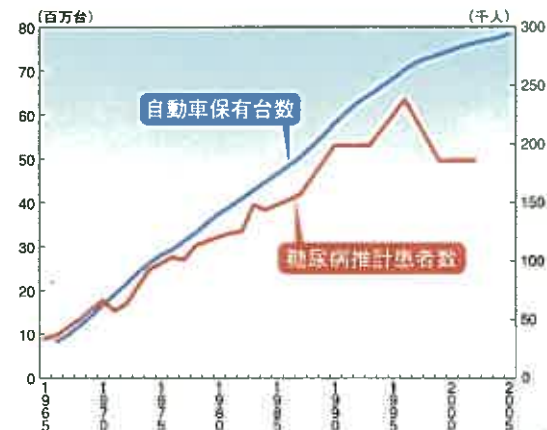
## 自 動車と健康の関係について

現代社会の成人は、一日300kcalのエネルギーが未消費のまま体内に残ると言われていて、これが肥満の原因となっています。仕事でもEメールなどの通信手段が発達してきて一日のほとんどをパソコンの前で過ごしたり、ちょっとした営業に出るのにもクルマを利用することが多くなっています。買い物も大きなショッピングセンターに自動車で行ってすませてしまうというライフスタイルが定着し、身体を動かす機会が少なくなっています。

下のグラフは、自動車保有台数と糖尿病推計患者数の推移を比べたものです。食生活の変化など、他の要因も絡んでいると思われるかもしれませんが、自動車が普及することにより運動不足になる人が増え、それがひとつの要因となって生活習慣病が増加しているといわれています。

ぜひ、通勤に自転車を取り入れたり、時間のあるときは一駅くらい歩いてみるなど、積極的に運動を取り入れてみてはどうでしょうか？

あなたにも地球にもいいことが起こると思いますよ！



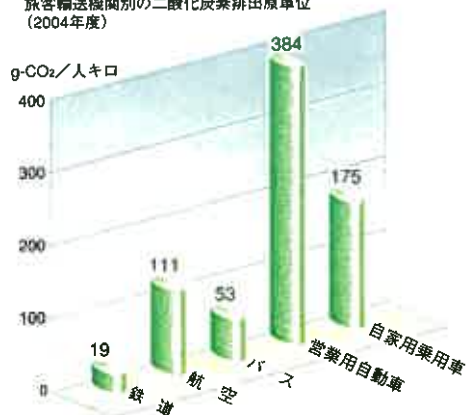
## 公 公共交通機関利用のススメ

地下鉄やバス、JRなど札幌にはさまざまな公共交通機関がありますが、みなさんはどれくらい利用されていますか？

公共交通機関には、「大量に人やモノを運ぶ」「自身で運転する緊張感からの解放」「高い安全性」「移動時間が確実に計算できる」「低い環境負荷」など多くのメリットがあります。例えばお酒を飲んだときも利用できますし、子どもが社会的なマナーなどを学ぶ場にもなります。

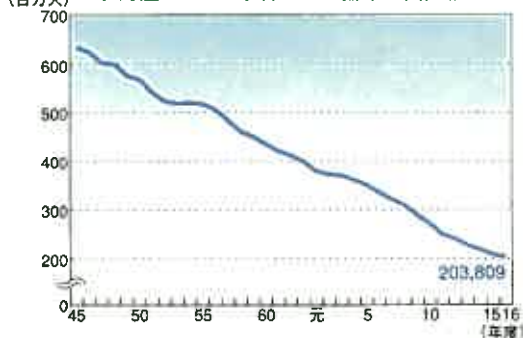
公共交通機関を利用しない方に「不便」を理由に挙げる方がいますが、札幌は他の地方都市から比べるとずっと恵まれています。残念ながら年々バスなどの公共交通機関を利用する人は減っています。子どもからお年寄りまで幅広い年齢層が利用できる公共交通機関を守るためにも、ぜひ利用しましょう。

1人を1km運ぶのに排出するCO<sub>2</sub>の比較  
旅客輸送機関別の二酸化炭素排出原単位  
(2004年度)



資料：『運輸・交通と環境(2006年度)』  
交通エコロジー・モビリティ財団発行

北海道における乗合バスの輸送人員推移



資料：北海道運輸局

## ヨ ヨーロッパのカーフリーデー

ヨーロッパでは、毎年9月22日に「カーフリーデー」という社会的なイベントが行われています。

日本の歩行者天国とは違い、都心部の特定地区内から公共交通を除いた自動車の乗り入れを制限し、都市環境の変化を市民の皆さん一人ひとりに体験をしてもらうプロジェクトです。環境問題を都市交通の面からアプローチしたり、都心ににぎわいを取り戻す、あるいは創り出していくため、自動車のあり方そのものを見直すために行われています。1997年にフランスのラ ロッセルで始まったカーフリーデーは、今ではヨーロッパを中心に1400都市に広がり、新しい交通政策や交通システムの実施導入のきっかけともなっています。

カーフリーデーでは、マイカーに頼らなくても、地域住民がその移動を制約されることなしに都市内を楽しむことができるということに気づいてもらうため、さまざまな施策が実施されます。



フランス・リヨンでの実施風景(2002年)

いくつか例を挙げると公共交通の増便やシャトル便で連絡される駐車場の確保、相乗りの促進、レンタル自転車などが設置されます。

日本でも、横浜市、松本市、名古屋市、国立市、姫路市などが参加して取り組みを実施しています。詳しくは、カーフリーデー・ジャパンHP ([www.cfdjapan.org](http://www.cfdjapan.org)) をご覧ください。

少しずつ「まち」を、「みち」を、人がこころよく、にぎわう場所に取り戻すために、ぜひ一緒に行動しましょう。



ヨーロッパモビリティウィーク&カーフリーデーのマーク

## クルマをいこまるとあそぶ♪

2006年9月発行

発行：北海道地球温暖化防止活動推進センター  
(財団法人 北海道環境財団)  
TEL：011-707-7011 FAX：011-707-7772  
URL：<http://www.heco-spc.or.jp>

協力：国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部  
環境省 北海道地方環境事務所  
札幌市 都心まちづくり推進室  
社団法人 北海道開発技術センター

イラスト：森迫暁夫

環境省では、EST\*モデル事業を通じて、運輸部門における温室効果ガス削減のため、さまざまな啓発活動を行っています。  
※EST：Environmentally Sustainable Transport の略、環境的に持続可能な交通



この冊子は環境にやさしい大豆インクを使用しています。  
砂盤キビの押しかすを原料とした非木材紙を使用しています。